

川柳マガジンクラブ東京句会 3月
平成21年3月8日(日) 駒込学園にて

参加28名 出席24名、投句4名

伊藤三十六、白勢朔太郎、山口千枝子、秋山和子、
小倉利江、村田倫也、横山きのこ、関 玉枝、
加藤品子、河野桃葉、左道 正、星野睦悟朗、
水野絵扇、丸山芳夫、土江裕美、棚瀬くんじ、
高田以呂波、山田こしい、ヨモギ、甲野竜雄、
阿部闘句郎、植竹団扇、松橋帆波
欠席投句
正木三路、石崎流子、藤原栄子、若山かん菜

自由吟 句評会

回復後 五体満足 日々感謝 以呂波

漢字だけでまとめるのは難しい。朔太郎

漢字だけでよく作られると感心します。睦悟朗

作者 ちよっとした怪我でも治った時は、五体満足で
よかった、感謝しなければと思う。

新聞でみんな包んだあの時代 品子

よく分かりますが、その後が見えれば。玉枝

「あの」というのが人によって違ってくるのでは。順
風

まさに、こういう時代があった。読み手によって時代
背景が違ってくるが、焼き芋を包んだ新聞紙というイ
メージで懐かしい。朔太郎

「あの」が気になりました。こいし

焼き芋を思い浮かべる。千枝子

「あの」が気になる。イメージが分散するのは。団
扇

読者にとっての「あの時代」を広げられるのでいいと
思う。若い人には難解か。帆波

作者 私にとっての「あの時代」は昭和。以前にも

「あの時代」が動く指摘されていたので、問
題提起の意味で出してみました。

籠の底たしかめて乗るエレベーター 順風

エレベーターにした方がいいのでは。そうすると上に
持ってくることになるが。玉枝

下五の音引きについて、エレベーターで現在通用してい
る。その議論を除けばいい句。三十六

同感しました。ヨモギ

籠の底が上手い。団扇

作者 最近の事件から詠んでみました。エレベーターの
表記はエレベーターという表記の会社が多いので
用いました。

葬儀屋の追い風になるおくりびと かん菜

追い風になるという点が気になる。品子

時事をうまく句にしている。朔太郎

タイムリーで判りやすく捉えてある。正

「追い風」が気になる。繁盛するというより見直され
たという感じだと思うが。利江

今流行のことを詠んでいる。千枝子

追い風が気になる。闘句郎

表現として「葬儀屋」と「葬儀社」を比較してみた

い。

帆波

独りぼつちになるのも視野に入れておく 倫也

自分と重ねてよく判る句です。桃葉

同感しました。くんじ

今を考えさせられる。絵扇

少子化時代。このようになるのかなと思いました。

こいし

作者 夫婦どちらが先に逝くか判らないが、こういう
ことも頭に入れておかないと、という思いで
す。

ロボットが掃除している妻の留守 竜雄

ロボットは夫では。団扇

作者 近未来の風景を詠んだ。工場などで使われてい
るものが家庭でも使われるのでは。夫をロボッ
トと想定していません。

花丸にくらべ偏差値野暮なこと 団扇

花丸が良いなと思いました。こいし

作者 母親がくれる花丸。それに比べると偏差値は野
暮だなと思う。

何ごとも善意にとつて太ってる 千枝子

よく分かる。玉枝

こういう風に暮らすと穏やかに暮らせるのでは。芳夫
気のいいニコニコした女性が浮かぶ。くんじ

後でそのときの善意を悔やむことなどもあって、いろ
いろと考えさせられる句です。和子

裏切られた時は瘦せるのだろうか。倫也

作者 太っている方は善意にとつているように見え
る。ふくよかな人はいいなと思う。

春の雪花の蕾に待ったかけ 絵扇

下五が気に入った。余韻を感じさせる。以呂波

作者 先日雪が降った時、花の蕾を見て思ったことで

す。

親しげに近づいてくる神の使者 正

神の使者は詐欺なのかもしれない。桃葉

宗教の勧誘かなと思う。順風

思い当たる部分があつて良くわかります。和子

入信の勧誘だろう。よく判る。睦悟朗

作者 新興宗教の勧誘にあつたときに思ったこと。

啓蟄に鉄砲玉の妻がいて 栄子

いい句だと思えます。品子

面白いと思えました。芳夫

啓蟄と鉄砲玉が結びついているところが面白い。正

外へ目を向ける明るさがあつていいと思います。利江

季語と街を詠みこむという課題をこなしたことがある。この句はうまくできている。倫也

季語を上手に使っている。団扇

淡雪へ余情を抱いている小枝 朔太郎

余情というのは恋慕と考えていいのでしょうか。いい句だと思います。品子

小枝に雪が積もっている風景をイメージしました。

余情を抱いているのは作者。自身を小枝に喩えたところが良い。帆波

きのこ

作者 俳句と川柳の違いです。小枝は人物、即ち作者

と取っていただければ。余情は名残の風情、趣

といったところ。

嘘だけは書かぬオイラの愛妻記 三路

「嘘だけ？」という印象を抱いた。こいし

絵になると思えます。綺麗な風景。和子

裏側から詠んだのではと思う。面白い。利江

あえてこういう事を書いている怪しげな夫。ヨモギ

オイラという表現が通常使われているかどうか。竜雄

オイラが気になったが、句意は「嘘」なのだと思う

て、そこが面白い。團扇

本当の事でも自分なら書けないだろうと思って、面白い。

作者 自伝のようなものを書く、どうしても良いところだらけの自慢話になってしまいが、だからこそ嘘は書きたくない。

悟朗

作者 自伝のようなものを書く、どうしても良いところだらけの自慢話になってしまいが、だからこそ嘘は書きたくない。

官から民渡り廊下に棲む魔物 流子

魔物が良い。竜雄

上手いなと思えました。順風

時事をうまく句にしている。朔太郎

作者 官僚が天下るために作られた財団法人・公益法人という組織。天下り禁止や組織の廃止を決め

でも、形や名前を変えて存続している。きっと魔物が棲んでいるに違いない。

定年で惜しい人材眠らせる 桃葉

実感が湧きます。玉枝

川柳として出来上がった句。三十六

実感があります。絵扇

人が大切だなと思います。裕美

下五が少し弱いかなと思います。利江

本当はチャンスだと思う。良い会社は人を眠らせない。千

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

作者 六十歳での定年は、まだまだ若い。その方の才能を眠らせているのは勿体無いと思う。

大根も煮込まれながら味を出し こいし

作者の意図とは違うかもしれないが、大根は汁の味を吸いながら美味しくなるのと同時に、自分も出汁を出して美味しくするので、その視点から作るとまた違った面白さが出たのでは。芳夫

大根が動く言葉ではと思う。二十六
人もいろいろな経験をして味がでるものだと思う。裕美

作者 「女房」という課題で詠んだ句です。白くて綺麗な大根が家庭の色に染まっていく。そんなイメージです。

春めいて糠喜びの風邪を引く 芳夫

子供などちょっと暖かいと半そでを着て風邪を引いたりするので、よく判る句です。絵扇
今の季節にあつていて共感できる。闘句郎
作者 「糠喜び」という言葉の発見を見ていただき良かったです。

カニの足一本欠けたお買い得 玉枝

通販のCMを思い浮かべた。三十六
一本欠けただけで値段が違う。こいし
カニの足がどうして無くなったのか考えると凄惨な句。

カニは網で獲るので足が欠ける。逆に言えばだからこそ高い。竜雄
作者 通販の訳あり品を見て思いつきました。

北斎も描いた老舗が苦戦する 睦悟朗

面白い。倫也
共感しました。裕美
苦戦しながらも老舗は戦っているのです。団扇
作者 絵手紙を書いています。机の上に北斎の絵があります。そんな背景から生まれた句です。

目覚ましをかけずに眠る定年後 ヨモギ

忙しい日常から離れての風景。玉枝
いい句だと思います。桃葉
作者 団塊の世代が一斉に退職する時代。その風景を詠んでみました。

エープルフルだけれども嘘やめる 三十六

現実から離れているのでは。だが川柳的。きのこ
無理して笑いを取ろうとしたのかも。倫也
理屈で作ったのかなと思う。闘句郎
作者 ちょっと嘘をついてみようかな、というところ
です。

ナツメロを歌う涙と聞く涙 裕美

違う涙の相乗効果。風景も浮かぶ。闘句郎

中七から下五へのテンポが良く、読後にイメージが湧く。以呂波

作者 ご苦勞されている人の歌を聞くと、こちらもつい涙ぐんでしまうことがある。その思いを句にしました。

歳時記もほっと息つく春の雪 利江

ほっと息つくは良いが、春の雪は別の表現があるので。は。芳夫

作者 温暖化の心配。歳時記にあった季節が薄れている。歳時記に合うように雪が降ってくれるとほっとすると思います。

どうかしていただけですと妻の笑み 闘句郎

少し怖いような気もして面白い。くんじ
いろいろな意味に取れるが、実感と重なる。睦悟朗
作者 「許す」という課題での作品。どうにでも取れるというか、どうにでも取っていたきたいという思いがあります。どうかしていたのは自分。それを許してくれる妻。

課題吟「負けてたまるか」

阿部闘句郎選

「佳作」

でんぐり返し光子さんには負けられぬ 絵扇
足指がぐいと掴んだ徳俵 団扇
負けてやるそう言われては負けられぬ 三路

ミサイルをすぐ撃ちたがる北の国 正
お隣に負けてたまるか七五三 くんじ

還暦に負けてなるかと喜寿デビュー 絵扇
デイホームまだ碁仇が生きている 千枝子

大阪で東京をほめ総すかん 睦悟朗
負けん気が災いをするバイキング 裕美

ゲーム機を孫に内緒で練習し こいし

「秀作」

息切らし貧乏神と競い合う 三十六
悔しさを握り拳の中で飼う 帆波
運命と片付けたくはない涙 帆波

「特選」

金と言う魔物に下駄を預けない 倫也

軸 死んだ気に生きて生き抜く希望満ち

関句郎

選後評・没句評

全体的に「負けてたまるか」という強い気持ちだが薄かったように見受けられました。

- ・赤い服嫁に遠慮はいるものか
嫁が派手な服を着ているから自分も、という意味か。課題ほどの思いではないように受け止めた。また、赤い服でチャンチャンコを連想した。
- ・受験の日母も意気込みテキニカツ
下五が難しい。
- ・雪路には負けていけないFカップ
中六音が判りませんでした。
- ・わたくしにウインク飛ばすチョコパフェ
実感がわかなかった。
- ・四件目断られても次の家
何故四件なのか解らない。
- ・審判が敵とわかって火をつける
中立である審判さえも敵という状況で燃えるという意味だが、火をつける対象が見えない。
- ・負け癖もついて忘れたてやんでえ
下五で会話表現を使うのはどうだろう。



印象吟の課題は次の画でした。



印象吟 横山きのこ選

第一印象は珈琲のように見えた。よく見るとダンボールですね。

「佳作」

中国製似て非なるもの入ってる 順風
不況風オバマに贈るダンボール 朔太郎
日本に黄砂を撒いた空輸便 三十六
突風に宇宙のゴミも飛んで来る 玉枝
ダンボール開けないままでまた異動 正
荷を捨てて国境越える牛の背な 和子
中国の武器は買わないオバマです 竜雄
中国が買い漁ってる資源ゴミ 利江
アメリカのケースで鰻泳がせる 千枝子
お荷物は月面にまで届けます 以呂波

「秀作」

仮の家抜け出た跡がまだ温い こいし
中国に自由の女神移住する 芳夫
食用に供してもよしダンボール 団扇

「特選」

アメリカの自由で飯は食べません 倫也

印象吟 星野睦悟朗選

白い部分が雪のように見える。ダンボールは蓋が織り込まれている。この風景から、なるべく飛んだ作品を期待しました。

「佳作」

民主主義少し入ってきたチャイナ 竜雄
思い出を荒野に残し国を捨て 和子
アメリカの夢中国に作らせる きのこ

お荷物は月面にまで届けます 以呂波

ゴミ入れになりそなゴミが捨ててあり 芳夫

米中の接近笑う四月馬鹿 三十六

古戦場歴史の跡を垣間見る 桃葉
かくれんぼ忍び笑いで見つけられ 正

日本に黄砂を撒いた空輸便 三十六
星条旗何処の作りと裏返す 品子

「秀作」

花の宴終ってみれば燃えるゴミ きのこ

ここはどここの箱なあになぜこの日 ヨモギ

中国を自由に **YES WE CAN** 闘句郎

「特選」

腐臭 ユラユラオフレコの森 帆波

まとめ 松橋帆波